

平成 21 年度第 11 回丸子地域協議会会議次第

平成 22 年 2 月 26 日(金)

現地調査.....午後 1 時 30 分：丸子地域自治センター玄関前集合・出発

- ・ 御嶽堂・山寺入口(城山登山道・岩谷堂遊歩道)
- ・ 中丸子・依田川右岸堤防(バラ園)
- ・ 飯沼・郷蔵
- ・ 長瀬・史跡散策コース
- ・ 長瀬・陣場地区(一本木公園)
- ・ 石井・千曲川河川敷
- ・ 丸子文化会館(西内小学校地域活動展)

地域協議会.....現地調査終了後、丸子地域自治センター3階・第1会議室

- 1 開 会
- 2 あいさつ

3 会議事項

(1) 防犯灯LED化の意見書について

[当日配布資料]

(2) 製造業の振興を狙った先進地との人・モノ・情報のビジネス交流事業の実施について

[当日配布資料]

4 調査研究事項

(1) 全体会議

わがまち魅力アップ応援事業の平成22年度応募状況について [資料1]

カネボウ食堂棟活用検討専門部会の報告

(2) 専門部会

5 その他

- ・ 次回の日程「3月12日(金曜日)」
- ・ その他

6 閉 会

丸子地域協議会からの「丸子地域の防犯灯のLED化について」の意見書に対する回答書(案)の基本的な考え方

◎ LEDライト導入そのものは、消費電力の低減に伴う温暖化ガスの排出量の削減による環境保護の観点と、器具の長寿命化及び電気料金の削減に伴う財政負担の緩和という観点から捉えて、上田市全体として取り組むべき課題であると考えております。

【器具の長寿命化：一般的には、4万時間といわれています。】

【電気料金の削減：平均的な防犯灯で、約680円/1灯・年間の削減。よって、上田市には現在約14,000件の契約数があり年間では約1千万円の削減となる見込みです。】

◎ ここ数年著しく注目を集めているLEDライトではありますが、現在のところJIS規格が整っておらず、安定した製品の供給が十分に補償されていない状況にあり、製品の不具合による発熱に伴う劣化や内部器具・基盤の不具合から短寿命化したり、広告どおりに電気料金の削減が実現しない例も報告されております。

また、LEDライトの付け替えにあたっては、現有の器材をそのまま使えるわけではなく、器材の改造を行うことから、新規設置にしても交換設置にしても現時点で導入を開始するとなるとライト購入を含めてかなり高額のコストがかかることとなります。

【イニシャルコストの検討：丸子地域の防犯灯2,300件をLEDに転化する費用として、1灯3万円として計算した場合、6千900万円必要。また、市内の防犯灯約14,000件をLEDに転化する費用として、1灯3万円として計算した場合、4億2千万円必要。今後のコスト低下を期待。】

【LEDの寿命：4万時間といわれているが、実験データはなく、理論値と思われる。】

【その他のリスク：特許侵害製品に関する責任追及・LED蛍光管と他の部材との耐久性の違い。】

◎ 今のLEDライトは、不確定要素が多く安定的な需要に結びついていない現状では、イニシャルコストで高額な予算を費やしても、現在言われているLEDライトの長所を十分に発揮できないままに寿命を迎える危険性があり、現在の製品の安定性や将来のリスク等を考慮すると、LEDライトについては、もうしばらく時間をかけて調査・研究をする必要があるものと考えております。

しかしながら、防犯灯のLED化は、前書したとおり環境への負荷軽減・経費削減の観点からは大変有意義な事業と捉えておりますので、現在丸子地域に設置されている防犯灯のLED化について、パイロット事業として実施する可能性をさぐりながら、今後同事業を推進するための調査・研究を行ってまいります。

協議案件：

製造業の振興を狙った先進地との人・モノ・情報のビジネス交流事業の実施について

協議依頼事項【概要】

丸子地域にとって、中小製造業が存続・成長することは、地域の雇用の安定・賃金確保に反映されることから、丸子地域及び丸子地域自治センターとして上記工業団体が行う先進地とのビジネス交流事業を進めていくことにつきご協議いただきたい。

背景

長く丸子地域の産業振興に大きく寄与してきた中小製造業が今現在、金融危機に加え経済環境の激変により苦境に立たされている。



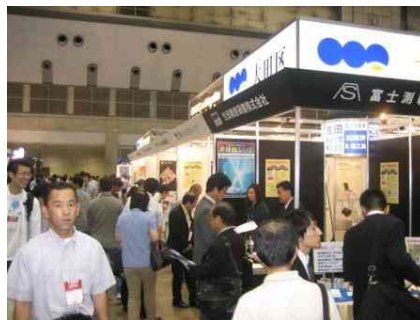
機械部品下請け企業の業績と連動性が高い「工作機械受注額統計」

グローバル化、特に中国などの新興国の台頭が加速するなか、中小製造業が生き残るためには国内・海外の製造業の先進地・集積地に出向き人・モノの交流を含め、広い視野でモノづくりを考えなければならない時期に来ている。

各企業ともこれらの状況は認識しているものの小規模の事業所においては、人・カネの経営資源不足であり、行動には移すことができない状況下にあった。

丸子地域での独自の取り組み

丸子地域では合併前より市内他地域にはない団体として組織された丸子工業振興会、丸子テクノネットなどが工業振興事業に力を入れおり、これまでも同団体では先進都市との交流・連携事業(1)を実施し、人脈・ノウハウを蓄積してきた。



展示会視察

東京や諏訪圏で行なわれている展示会への視察

県外受発注活動の研究懇談会

大田区や諏訪圏で先進的なモノづくりの支援をしている人物を講師に招いての研修

2010年1月27、28日に行なわれた「さいたまスーパーアリーナ」への出展



共同出展



キーパーソンを招く

今後の課題

各種統計に現れているように一般的に言って、規模の小さい中小製造業ほど受注回復にいたっていない。

この先地域の中小製造業が時代に対応し存続・成長するには、工業団体がこれまで取り組んできた事業は、即効性のあるものではないことから今後も引き続き継続的、かつ特定の先進地に絞って人・モノ・情報のビジネス交流を推進していく必要があるといわれている。

問題は、最終的には受注創出につなげることを視野に入れ、一定の結果が出るまで継続できるかどうかである。

具体的には、以下の事業を工業団体が通じて実施していくべきことは意義があると思われる。

地域が連帯して技術展などへの出展費用の補助

先進地現地工場 経営者への視察訪問をコーディネート、

海外を含め活躍しているキーパーソンの招聘をコーディネート

事業計画(案)

工業団体では以下の事業を検討中である。

大田区とのビジネス交流

・「おおた工業フェア」への共同出展

 予算(小間代 150,000 円、その他共同装飾費)

・大田区産業振興協会を通じたビジネスマッチング

 予算(専門員講師謝礼、工業団体出張費)

諏訪圏とのビジネス交流

・「諏訪圏工業メッセ」への共同出展

 予算(小間代 300,000 円、その他共同装飾費)

・諏訪圏からキーパーソン講師招聘

 予算(謝礼、旅費)



おおた工業フェアへの参画そしてビジネス交流



地理的にも近い諏訪圏との交流